

三島の教育

平成29年度

(2017年度)

三島市教育委員会

ま え が き

少子・高齢化や国際化の進展、産業構造や雇用の変化など、子どもたちが直面していく課題が山積している昨今、教育の責務は一層大きくなってきていると感じます。このような状況の中、文部科学省は平成29年3月に「次期学習指導要領」を告示し、「社会に開かれた教育課程」で子どもたちが、社会の変化に対応できるための「資質・能力」を育むことを実現していくという方向性を掲げました。

三島市教育委員会といたしましては、学校、家庭、地域が連携した地域ぐるみの教育を推進することで、地域や三島の未来を担う子どもたちを育てていきたいと考えております。そのために、平成28年3月に策定した「教育に関する大綱」の4つの柱である「三島市学校教育振興基本計画」、「三島市生涯学習推進プラン」、「三島市文化振興基本計画」、「三島市子ども・子育て支援事業計画」のもと、それぞれの分野で特色ある施策を展開してまいります。

学校教育においては、「三島市学校教育振興基本計画」に基づき、「心の教育」を柱とし、昨今の教育課題を解消するために、「確かな学力の育成」、「生徒指導や特別支援教育の充実」、「命を守る学校環境づくり」に取り組んでいます。特に、「確かな学力の育成」の分野において、これまで継続して分析してきた三島の子どもたちの学力や学習状況をもとに、よい点をさらに伸ばすとともに課題を解決すべく方策を探っていきます。また、教員おのおのがICT機器を有効活用することによって、子どもたちの学習への興味関心を高め、個の能力や特性に応じた学習や、子ども同士が教え合い学び合う協働的な学習を展開し、確かな学力の育成を図ります。

学校施設については、子どもたちが一日の大半を過ごす活動の場であり、また、非常災害時には地域住民の応急避難場所として、その安全性の確保は極めて重要なことから、毎年設備の点検を行い、補修整備を行っております。今年度は、平成28年度より工事に着手している北中学校南校舎棟について、引き続き、平成30年4月の供用開始を目指して工事を進めていきます。また、教育の情報化を推進するため、今年度は小学校の特別教室や少人数教室用へ電子黒板、教材提示装置を拡充整備するなど、ICT機器のより活発な活用に取り組んでまいります。

生涯学習に関しては、「三島市生涯学習推進プラン」に基づいた総合的な生涯学習の推進を図ります。また、地域ぐるみでの青少年育成のため、特に学校、家庭及び地域の連携協力推進事業に力を入れ、地域の皆さんに学校支援ボランティアとして活動していただく学校支援地域本部事業を市内全公立小中学校で実施するほか家庭教育支援事業を積極的に実施していきます。

文化振興に関しては、平成29年度の機構改革に伴い市長部局が担当することとなりましたが、引き続き「三島市文化振興基本計画」に基づき文化振興施策の推進に取り組めます。

文化財については文化財愛護の精神を高め、郷土への愛着や地域文化への誇りを醸成するため、市民・ボランティア団体をはじめ、様々な文化財所有者と連携・協働し、文化財保護法・博物館法に基づく保護と活用を計画的に推進していきます。

さらに、図書館では、「第2次三島市子ども読書活動推進計画」の中間年度となる平成28年度に計画の見直しを行い、改訂版を策定しましたので、この計画に基づき、幼稚園・保育園や小中学校及び各関係機関と連携を図り、各事業を実施し、更なる読書普及に努めていきます。

また、これらの取組に加え、今年度も総合教育会議を開催し教育委員会と市長部局とのより強固な連携を図ることで、より充実した教育行政の推進に向け、社会総がかりで取り組んでまいります。

ここに、関係各位のさらなるご理解、ご協力をいただけますよう、この小冊子を取りまとめましたので、ご教示とご鞭撻を賜れば幸いに存じます。

平成29年9月

三島市教育委員会 教育長 西島玉枝

目 次

I 市政のあらまし

- 1 位置・地勢・人口…………… 1
- 2 沿革…………… 1
- 3 財政…………… 2

II 教育に関する大綱

- 1 三島市学校教育振興基本計画…………… 3
- 2 三島市生涯学習推進プラン…………… 3
- 3 三島市文化振興基本計画…………… 4
- 4 三島市子ども・子育て支援事業計画…………… 4

III 教育委員会

- 1 教育長及び教育委員…………… 5
- 2 教育委員会所管組織一覧…………… 5
- 3 平成28年度教育委員会及び
総合教育会議議題……………6
- 4 事務分掌…………… 7

IV 教育財政

- 1 平成29年度教育費予算（当初）……………10
- 2 年度別教育費の推移（当初予算）……………11
- 3 年度別教育費の執行状況……………12
- 4 園児・児童・生徒の人口に占める割合……………13
- 5 園児・児童・生徒1人当たり及び
人口・世帯割の教育費……………14

V 教育施設

- 1 学校要覧……………15
 - (1) 小学校……………15
 - (2) 中学校……………15
 - (3) 幼稚園……………15
- 2 学校施設……………17
 - (1) 小学校……………17
 - (2) 中学校……………17
 - (3) 幼稚園……………17
- 3 その他教育関連施設……………19
- 4 平成28年度の学校施設の整備・補修等……………19
- 5 平成29年度の学校施設の整備・補修等……………20

VI 学校教育

- 1 平成29年度三島市の学校教育…………… 21
- 2 遠藤奨学金について…………… 25
- 3 平成28年度就学免除・猶予・死亡児童生徒数 27
- 4 平成28年度転入・転出児童生徒数…………… 27
- 5 平成28年度中学校卒業生の進路…………… 27
- 6 平成28年度就学奨励援助…………… 28
- 7 平成28年度日本スポーツ振興センター掛金
及び給付金……………28
- 8 学校給食……………29

VII 社会教育（生涯学習）

- 1 社会教育施策の重点……………31
- 2 平成29年度の重点事業……………31
- 3 委員会・団体の構成……………32
- 4 生涯学習事業……………32
- 5 生涯学習推進事業……………32
- 6 家庭教育事業……………33
- 7 成人教育事業……………34
- 8 女性教育事業……………35
- 9 青少年対策事業……………35
- 10 青少年教育事業……………37
- 11 児童センター事業……………39
- 12 学校・家庭・地域連携協力推進事業……………40

VIII 文 化

- 1 平成29年度の施策の重点……………41
- 2 文化振興……………41
- 3 文化財保護……………44

IX 社会教育施設

- 1 三島市民生涯学習センター……………52
- 2 図書館……………55
- 3 公民館……………58
 - (1) 中郷公民館……………59
 - (2) 坂公民館……………60
 - (3) 北上公民館……………61
 - (4) 錦田公民館……………63
- 4 箱根の里……………65
- 5 市民文化会館……………69
- 6 郷土資料館……………72

I 市政のあらまし

1 位置・地勢・人口

(1) 市役所の位置

東 経	138度55分
北 緯	35度06分
標 高	24.9m

(2) 地 勢

東 西	11.107km
南 北	13.242km
面 積	62.02km ²

(3) 人 口

(平成29年4月30日現在)

男	54,336人
女	56,788人
計	111,124人
世帯数	48,715世帯

(人口、世帯数には外国人を含む)

2 沿 革

箱根西麓に位置する三島市は、気候・風土など自然条件に恵まれていることから、市内の各所で縄文・弥生文化の遺跡を見ることができ、約4千年前の縄文式住居跡や、さらに約2万7千年前(旧石器時代)の石器も発見されており、古代から人々の生活に適した所であったと言える。

天武天皇の飛鳥時代(680年)に伊豆国の国府が置かれ、奈良時代天平年間には国分寺・国分尼寺が建立されるなど、三島はこの地方の行政・教育文化・交通の要衝の地であったことがうかがえる。

源頼朝が、挙兵(1180年)に際し戦勝祈願をしたことで有名な三嶋大社は、鎌倉・室町時代、武家の崇敬篤く、また庶民の信仰をあつめたことで知られている。

戦国時代末期に築城された山中城は、秀吉の小田原攻めの際(1590年)に落城、現在は国指定の史跡公園として整備されている。

徳川時代には幕府直轄の天領となり、170年間三島に代官所が置かれていた。東海道とともに繁栄した三島宿は、品川・桑名と並んで五十三次の中でも大きな宿場の一つであり、最盛期には78軒の旅籠を数えた。さらに門前町としての性格もあって往時は繁華を極めたという。

幕末の頃、三島には十数校の漢学塾と相当数の寺子屋があった。明治5年(1872年)に学制が施行されると2校の小学校が設置され、翌6年(1873年)には現在の市域で6校を数えるに至ったことは、住民の伝統的な向学心の証であろう。

明治19年(1886年)には君沢田方郡役所が置かれ、明治22年(1889年)市町村制の施行により三島町となり、同22年(1889年)、県下で最初の公立幼稚園が三島・静岡・掛川に開園した。

大正4年(1915年)3月、三島町立図書館開館。大正

8年(1919年)から9年(1920年)に野戦重砲兵連隊が横須賀及び和歌山から三島に移転し、昭和9年(1934年)丹那トンネルが開通して三島駅が設置されると、宿場の疲弊により一時沈滞していた街にも活気が戻った。

昭和10年(1935年)北上村を編入し、昭和16年(1941年)には錦田村と合併して三島市が誕生した。昭和29年(1954年)には中郷村を編入して総面積62.13km²の市域となり、現在に至っている。

昭和32年(1957年)米国カリフォルニア州のパサディナ市と、全国で4番目の姉妹都市縁組を結び、国際化時代の先達として着実な交流を続けている。

昭和39年(1964年)三島・沼津地域に計画された石油化学コンビナートの進出を阻止。昭和44年(1969年)新幹線三島駅の開業等による経済圏・生活圏の拡大と相まって人口が急増、さらに、新幹線ひかり号の停車や、平成21年(2009年)7月の東駿河湾環状線一部供用開始、首都圏への直通高速バスの運行開始により、伊豆・北駿の玄関口、交通の結節点として、県東部の中核的都市として発展を続けている。

平成3年(1991年)4月、市制施行50周年を迎え、ニュージーランドのニュープリマス市との姉妹都市縁組を結び、さらに平成9年(1997年)5月には、かねて交流を重ねてきた中国浙江省麗水市と友好都市縁組を結んだ。

平成28年(2016年)4月には市制75周年を迎え、現在市内には、幼・小・中・高校のほか、大学院大学でもある国立遺伝学研究所をはじめ、日本大学国際関係学部・短期大学部、順天堂大学保健看護学部、放送大学静岡学習センター、佐野美術館等多くの教育文化施設が設置され、市民文化会館や市民生涯学習センターを教養文化の拠点として、せせらぎと緑と元気あふれる協働のまちづくりを目指している。

3 財政

平成29年度一般会計歳入歳出予算（当初）

（単位:千円）

（単位:千円）

歳入	
費目	予算額
市税	17,498,989
地方譲与税	255,001
利子割交付金	40,000
配当割交付金	110,000
株式等譲渡所得割交付金	120,000
地方消費税交付金	2,030,000
ゴルフ場利用税交付金	50,000
自動車取得税交付金	66,000
地方特例交付金	74,000
地方交付税	1,000,000
交通安全対策特別交付金	26,000
分担金及び負担金	429,807
使用料及び手数料	688,834
国庫支出金	5,119,251
県支出金	2,412,935
財産収入	138,799
寄附金	320,009
繰入金	584,016
繰越金	300,000
諸収入	860,359
市債	2,626,000
歳入合計	34,750,000

歳出	
費目	予算額
議会費	267,159
総務費	3,673,953
民生費	12,298,114
衛生費	4,292,072
労働費	281,076
農林費	306,628
商工費	484,680
土木費	4,525,074
消防費	1,523,372
教育費	3,596,022
災害復旧費	1
公債費	3,471,849
予備費	30,000
歳出合計	34,750,000

